

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 岡本 有美子
所属 (School) 工学研究科 電気・情報系専攻
学年 (Grade) M2

留学先 (Name of overseas institution)
オーストラリア、メルボルン
モナシュ大学

留学期間 (study abroad period)
2018/8/10~2018/9/9

留学レポート Study Abroad Report

◆ はじめに

私はこの夏1か月間メルボルン、モナシュ大学でかけがえのない経験をし、たくさんの知識を得て、そして、優秀でおもしろく共に成長し合える友人たちに出会いました。この充実した学び多き1か月間は確実にこれからの私の人生の糧になるだろうと思います。将来グローバルな環境で働きたいと考えている学生の方にはぜひこのプログラムに参加し、私と同じ喜びを味わってほしいという思いで、私の経験を共有したいと思います。

◆ メルボルンでの生活

留学前の私の中でのオーストラリアのイメージは動物がいっぱいいる自然豊かな国といった感じでした。それは間違っではいませんでしたが、メルボルンの中心街は高層ビルが立ち並んだ都会でした。一方で伝統的な建物や芸術もたくさんあり、訪れるべき場所がたくさんありました。授業が朝9時から16時までであるため行きたくない場所をすべて回ることはできませんでした。メルボルンはコーヒーが有名で、いたるところにカフェがありました。朝の通学時にはコーヒーのマイボトル片手に通勤している人をたくさん見かけました。そんな優雅な朝の時間にあこがれ、私も何度も真似しました。日本の夏に行ったためオーストラリアは真冬でした。メルボルンはオーストラリアの中でも南に位置するため、とても寒く、気温が0℃を下回る日もありました。また、とても天気が変わりやすく、気持ちのいい晴れの日だと思った次の瞬間に大雨が降り、数分経つとまた晴れるなんてこともよくありました。



Flinders street station

<ホームステイ>

私のホストファミリーはマザー・ファザーとその子供2人の、4人家族でした。夕食はマザーが用意してくれました。私のホストマザーはオーストラリア出身だったので、なじみのある西洋料理(パスタ、ピザ、グラタンなど)でした。夕食の時間は午後6時ごろでしたが、授業が午後4時までであり、そのあと友達とcity散策や買い物をしていると間に合わないの、7~9時ごろに帰って一人でご飯を食べることもありました。また、メルボルンには様々な国籍のレストランがあり、週に3~4回ほど外食していました。毎日家で夜ご飯を食べればかなり出費を抑えられると思います。朝・昼はキッチンにある食材で自由に作って食べる方式でした。晩御飯の残りを翌日のランチに持たせてくれることもありました。

ういった苦しい経験のおかげで、自分の意見を素早く頭の中で整理し、英語で伝える力が伸びたと感じます。

また、このプログラムには国籍も専攻も年齢も異なる様々な学生が参加していましたが、たくさんの優秀な仲間に出会えて、たくさん刺激を受けました。大学院の2年で参加した私は、4つも5つも年下のクラスメイトが私よりもずっと流暢に英語を話し、チームを引っ張っていく姿を見て、自分を情けなく思うことが幾度となくありました。しかし、GPPを通してそれぞれの強みを理解した結果、最大のチームプロジェクトである shark tank ではそれぞれに適した役割を見つけて協力することで優勝することができました。大きな喜びと達成感を感じましたが、なにより、私ならではの役割を果たしチームに貢献することができたという自信につながりました。

他にも、本当にたくさんのことを学びました。プレゼンテーションにおいて聞き手を引き付けるための様々なテクニックや、人間関係を円滑にする small talk の方法、connection の作り方など社会で働く上で活用したいスキルや、日本とは大きく異なるオーストラリアの文化、価値観などです。英語のリスニング力と英語で意思・意見を伝える力も格段に伸びました。留学前に掲げた「グローバル人材に求められるスキルを実践的に学ぶ」という目標は達成されたと思います。もちろん、それらのスキルを1か月ですべて身につけられたとは思いません。ですが、このGPPプログラムは、どのように自分を測ればよいのかの指標を明確にしてくれました。これらの指標に基づいて、残りの学生生活、そしてその先の社会人生活において自らを成長させ続けたいと思います。



Shark tank project



卒業式

◆ まとめ

私がこの留学を決めたきっかけは、「そんなに英語の勉強が好きで、海外にも興味あるなら、留学してみたらいいのに」という友人の言葉でした。当たり前の提案のように見えますが、私は目からウロコが落ちたような思いでした。それまでの私は、留学なんてできないと思っていたし、実際、1週間以上日本を離れ、異国の地で生活してやっていく自信も勇気もなく、気づいたら学生生活最後の年となっていました。様々な不安もありましたが、今は行って良かったと自信を持って言えます。もし私と同じ状況の人がいるならば、研究が忙しいから…、今更遅いし…という理由であきらめてほしくないです。最後になりましたが、今回の留学をサポートして下さった国際交流課のみなさん、モナシュ大学のスタッフ・トレーナーの方々、ホストファミリーと、応援してくれた家族に感謝します。ありがとうございました。



LUNE croissant



Yara riverの景色